

# 第 10 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成30年10月16日（火）

開催時間 午後 3 時 00 分から午後 4 時 15 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 市川 満  
教育長職務代理者 和田 一枝  
教育長職務代理者 野田 清紀  
委員 武者 稚枝子、加藤 正芳

出席職員 教育次長 小島 良一  
教育監 青柳 達也  
学力向上対策監 佐野 修  
次長（総務課長） 塩野 開  
福利給与課長 諏訪 桂一  
学校施設課長 後藤 宏  
義務教育課長 （代 総括課長補佐 興水 秀策）  
高校教育課長 廣瀬 浩次  
高校改革・特別支援教育課長 染谷 光一  
社会教育課長 保坂 哲也  
スポーツ健康課長 前島 斉  
学術文化財課長 百瀬 友輝  
企画調整主幹 雨宮 邦仁  
総務課総括課長補佐 古屋 登士匡  
政策企画監（総務課課長補佐） 武井 俊人  
総務課課長補佐 若月 衛  
総務課課長補佐 望月 勝一  
総務課主査 河野 奈美

総務課 主査 日向 かづ美  
福利給与課 主査 清原 昭典  
義務教育課 主幹・管理主事 市川 敏也  
高校改革・特別支援教育課 課長補佐 小林 俊一郎  
主査 後藤 貴樹  
社会教育課 主幹 古屋 公彦  
主任 大森 朋美  
学術文化財課 課長補佐 白須 弘昭

傍聴人 0 名

報道 2 名

## 会議要旨

### 〔 教育長開会宣言 〕

教育長から三塚委員が都合により会議を欠席する旨の届け出があったとの報告があった。  
議案第23号、報告事項7、その他報告17については、個人情報に関することであるため非公開としたい旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

### 1 議 案

第 22 号 非常勤の教育職員の手当支給に関する規程の一部を改正する訓令

〔説明〕 福利給与課

野田委員 地方交付税によって増額といった言い方だが。

諏訪課長 地方交付税単価の改定ということだ。

野田委員 地方交付税額が増額すると増額するという意味ではないということではないか。

諏訪課長       それを参考にしながらということだ。

野田委員       それは切り下がれば、今度逆に切り下がるということによいか。

諏訪課長       そういうことだ。

【原案どおり決定】

第 23 号 山梨県考古博物館協議会委員の委嘱・任命について

〔説明〕 学術文化財課  
( 非公開 )

【原案どおり決定】

2 報告事項

(7) 平成30年度山梨県教育功労者表彰について

〔説明〕 総務課  
( 非公開 )

【了知】

(8) 山梨県社会教育委員の会議からの提言書の提出について

〔説明〕 社会教育課

市川教育長       これは、この社会教育委員の会議から県教育委員会に対して提言がなされたということなので、これを受けて県教育委員会とすれば社会教育地域創生についてこれから検討をしていくためのものということによろしいか。

保坂課長       はい。

野田委員       次の教育大綱の中で、知事が山梨県らしさをというようなことを話していたが、具体的に社会教育委員会からこういう提言を受けて、山梨らしい地域人材の育成とか、社会教育のあり方というのは、どんな考えで推し進めようと思っているか。

古屋主幹       第一章にも課題等も含めて書かれてあるが、山梨らしさをもうちょっと見直しをして、それぞれの地域に良さがあると思うので、そういったものを掘り起こしながら地域で取り組んでいただけるように社会教育課としては支援していきたいと考えている。

- 野田委員 答えにくい質問だと思うが、山梨らしさというのは、ある意味で社会教育にしても、普通の教育にしても定義するものをある程度決めていくべきだと思う。具体的に山梨らしさって、「これも山梨らしいね」と言えば、みんな山梨らしくなる。そうした時に、どんな方向性が山梨らしい社会教育なのか、あるいは普通の真ん中の山梨らしさなのかという。やっぱりその辺はカチッと決めないと、ボヤッとした言葉で、とにかく山梨らしさと言えば何でも収まるというような、曖昧な言葉だけではいけないかと思う。せっかく提言を受けたので、この中から、やはり山梨らしさというものを見つけていく、あるいは方向性を見出していくというのが、今後我々の仕事だと思う。
- 市川教育長 私は、提言を受けた側で、いろいろ説明をいただいた。地域で活動されている方々から、活動の実情を聞き、地域の宝と言うか、そういったものが横の連携がなかなか取れていないという話があったり、また、グローバルなSDGs、持続可能な開発という、ああいったグローバルな視点というの、いきなりそこに行くのは難しい。そういったものを考えながら、ローカルのことでもあって行くべきじゃないかというのを、今回盛り込んだという話をされていた。  
単なる表面的な整理ということではなく、実際に山梨県で活動しているいろいろな団体、NPOなどを、どう連携させていくのか、また世界的な視点というのをどうローカルに結び付けていくのかといったところでまとめたという話が今日あった。そういったことを踏まえながら進めていくことになると思う。
- 加藤委員 大体、漠然として社会活動というのは分かるが、これは主導するところというのはどこになるのか。教育委員会で提言を受けたということだが、その先に社会活動を振興しているポジションというのはどこがやっているのか。
- 保坂課長 それは地域ということになる。例えば、教育委員会・行政・民間・NPOなどとなるか。こういった提言をなされたことを広く周知していくということになる。
- 加藤委員 逆に主導はしていないのか。何かやりたいと言った場合に、地域が自主的に勝手にやっているということではなく、ある目的意識を持って、こうしてほしいといった指導はどこがやるのか。
- 保坂課長 社会教育は基本的に指導監督はできない形。だからいわゆる支援するといった形を取っている。
- 市川教育長 社会教育そのものというのが、正にそこに住んでいる方々が主体となって、その地域の特性とか実情を踏まえて、課題に対する解決の方法を探ってもらう、関係機関との連携や、地域資源を活用しながら解決に向けて考えてもらう、ということになる。当然、そこには行政がお客さんということではないが、いろんな地域の人たちが主体となって動いていただくと。そういったところの人材を作っていこうということになるか。  
なので、主導というような、単に行政が何々をして下さいということではなく、あくまでも地域が主体でその人たちが動けるような環境を整えたり整備したりということは当然ある。
- 加藤委員 そのこの部分に落としていくことは分かるが、もっとお題目があって、グローバルの視点の方針があって、それが一部日本へ落ちてきて、山梨の地域においてこうやっているのかと思ったので、そこはあまり複雑に考える必要はないということだね。

- 市川教育長 地域のことは地域でということがありつつも、そうは言ってもこれだけグローバル社会になっているわけだから、そういったグローバルの視点というの視野に入れながらということになるか。それについて具体的にというのは、SDGs そのものがまだそれほど動いているわけではないので。参照する枠として、例えばSDGs というようなものというのものもあるのではないかと、という話だ。
- 加藤委員 地域社会で必要に応じて貢献されているということは、ありがたい話だが、評価となると、なかなか管理が非常に大変ということになる。
- 市川教育長 基本的には、管理監督はあまりしない。
- 加藤委員 しないということ。自主的にやってくれということだね。
- 和田委員 一都九県の教育委員会会議に出た時に、社会教育について、地域を担う人材の育成を進めていくためには、専門的な知識を持った人たちが指導したり、まとめていかなくちやいけないということで、例えば社会教育主事等の育成を図っていく。あまり活動していないような市町村もあるといった話も出てきたが、やっぱり誰かまとめるとか、情報を提供するとか、横と横をつないでいくとか、縦と縦をつなぐとか、そういうことをする人がいなければ、進んでいかないということで、それは行政の仕事でもあるのかなと思った。そういう専門性を有した人材の育成がとても重要になるのではないかという話もあった。
- 武者委員 今回、この2年間、10回の会議で、一つにまとまった、社会教育をするためにはこういったことが必要だと思いますということで、教育委員会のほうに提言されたが、我々としては、では具体的には、まずこれを中心にがんばろうということで道筋を立てる、いろいろ施策を立てる時に、こういった視点をいつも気に留めておくということの理解でよいか。
- 保坂課長 提言になるので、そういうことだ。

## 【 了 知 】

### 3 その他報告

#### (16) 教育委員会所管の公の施設に係る指定管理者候補者の選定について

〔説明〕 総務課

- 野田委員 契約更新の時に大体このぐらいの予算でこういうのを運営して下さいね、みたいなものを、これらの7つの施設に対して、県のほうから出しているのか。
- 塩野課長 これらの施設は、前は5年間という期間で指定管理をお願いしていたが、今回から4年間の指定管理の期間を設定している。この公募を行うにあたって、委託料や、どういったことを管理してもらいたいとか、どういう運営をしてもらいたいのかといったことを明らかにした上で公募をしている。
- 野田委員 公募した数、こんなもんなの。

- 塩野 課長 どうしても施設の管理という部分がメインになるので。
- 加藤 委員 5年を4年にしたというのはどういう理由か、短くしたというのは。
- 塩野 課長 議会のほうから4年程度とすべきではないかと話があったので。
- 加藤 委員 ケースケースによって違うか。ある程度長い間継続しないと、かえって定着しないという場合もある。
- 塩野 課長 安定的に運営をしていくためには、業者側としては長期間委託を受けたいということはあるが、逆にあまり長期になるとマンネリ化してしまうといったこともあり、それで議会のほうで大体4年ぐらいがいいだろうということで意見をいただいた。
- 加藤 委員 ということは、最終的には議会がこの承認をするということか。
- 塩野 課長 スケジュールにもあるように、12月の議会で議案を提出し、議決を経て正式決定という流れになる。
- 和田 委員 単純な疑問だが、管理を頼まれているところの施設がかなり老朽化をしてきている場合もある。いくら綺麗にしても見た目も良くないし、壊れているような部分もあるといった施設もこの中で気が付くところもあるが。そういうことについて管理する側も、ちょっとこの老朽化の状態では、といったことで敬遠するとか、そういうことはないのか。
- 塩野 課長 どの施設も公の施設なので、所有者は県ということになる。指定管理者との契約の中で、例えば60万を超えるような修繕、大規模なものについては県が主体になって行うという契約になっている。その契約未済の補修的な部分、日常的な維持補修的な部分について、指定管理者のほうでやっていただくという契約になっているので、建て替えるとか、かなり大規模な改修については県が行うということになる。
- 和田 委員 施設を使わせていただいたが、会議室等も下水の臭いがするというところがあったので、どうかなと思った。
- 武者 委員 補修が必要かというようなチェックは、その管理者が責任を持ってやるということなのか。
- 塩野 課長 所有は山梨県のものなので、耐震性とか老朽化の状況、そういったものについては県としてもチェックをしている。その上で、教育委員会いろいろ施設があるので、優先度を付けた上で高いものから手を入れるということをしている。
- 武者 委員 施設を利用した方から、アンケートでこういうところは気を付けて欲しいとか、意見をもらえる、なかなか県で定期的にチェックをしているということも少ないかもしれないので、そういうのがあったら良い。

- 塩野課長 県がチェックをすることもあり、指定管理業者のほうから、改修したほうが良いという話もいただいている。そういったものも参考にしながら、緊急性というものを見て、教育委員会、施設が多いので、優先順位の中で行っているため、老朽化というのが目立ってしまうような状況ももしかしたらあるかと思う。
- 加藤委員 本来は県が管理していたものを指定管理という形に移して、労力を少なくしようと図ったから、時間が経つとともにそういった問題が出てくる。
- 和田委員 そうすると稼働率も下がる可能性もあり、結構空いている部屋がたくさんあったので、どうかなと思う。
- 武者委員 そういう意見が拾えていれば良いと思ったが、補修が必要だとかいうのが各施設から意見が出ているようであれば良いが、「ここ古いね」とか、「汚いね」というものまで流されていったら、結局責任の所在がないままに、でも最後は県だからとなり、でも県は施設をたくさん持っているか、優先順位が、と何かぼやかして、いよいよだめになるまで、そのままになってしまうのかなという気がした。もしきちんと指定管理者となるのであれば、そういうところ、1年に1回でも、半年に1回でもいいので、洗い出しをしていたくようなことがあると良いと思った。
- 塩野課長 指定管理者の事業者からもそういった要望はいただいている、すべて把握をしている。さらに、今、公共施設の総合管理計画というものを県全体で行っているが、その中に個別の施設ごとに、老朽化の状況といったことも、一つ一つ施設ごと把握するようなこともやっているの、その中でも必要な時期に改修を、手を加えていくということもしていきたいと考えている。
- 武者委員 先ほどの社会教育委員でも、山梨はほかの県からして魅力的な県であるといった順位になっていくということなので、ぜひこういう施設が、「ここ山梨はすてきだよ」となると、利用率が上がって、そういう意味でも、人口は少ないかもしれないけれども、県外から来る人が多いといった感じに、良い評判が立つと良いと思った。
- 塩野課長 分かりました。ありがとうございます。

## 【 了 知 】

- (17) 平成31年度採用山梨県公立学校教員選考検査について  
〔説明〕 義務教育課・高校教育課  
( 非公開 )

## 【 了 知 】

- (18) 平成30年度中学校卒業予定者の第1次進路希望調査結果の概要について  
〔説明〕 高校改革・特別支援教育課

- 野田委員 探究科のポイントがずいぶん下がっているが、そこは何か問題があるのか。
- 染谷課長 探究科については、今回は第1回目の希望ということもあるが、前年1.43倍から今年1倍ということについては、分析が今回の調査ではできない状況である。単純な憶測になるが、まだ始まって3年間経っていないということもあり、まだ結果が出ないということもあるかと思う。
- 加藤委員 全日制高校の普通科の構成比率が年々上がっている。今回も54.55だが、これはやっぱり大学進学へ向けてのウェイトが段々増えていることとイコールになるのか。
- 染谷課長 イコールとは言いかねるかもしれないが、そういうことは想定されるというか、予測はできる。普通科のほうが大学進学には有利というか、学ぶ学科が平均的であるので。
- 加藤委員 大学に行くことは非常にいいことだが、県外へ出ると戻ってくる人が段々少なくなるという人口減少につながることになるので、何か対策も必要だよな。
- 染谷課長 対策については、現在高等学校審議会を開催し、次期整備構想を作ることになるが、その中では、県外流出を食い止めるということはなかなか難しくイコールになるかわからないが、各学校の魅力化を図っていくということは、検討していくところである。
- 武者委員 今の魅力というところに関係あるかもしれないが、全体的に県内の公立高校への進学が少しですけど減って、県外とか、県内の私立高校の希望者が増えているところからすると、やはり県内の高校の魅力、あまり独自性が出していないとか、受験だけになっちゃっているとか、そういう傾向があるのか。
- 染谷課長 その辺は、今回の調査では分からないが、毎年高校改革アンケートをやっていて、その中では、少し分析できるところもある。そういったものを踏まえて、魅力については高等学校審議会のほうで検討させていただければと思う。
- 市川教育長 親の転勤というのものもあるか。
- 染谷課長 中にはあると思う。数はこの調査では分からないが、例えば私立の運動が有名なところに行っている方もいる。それは多分行きたいということで行っているだろうが、栃木とか、そういった所にも希望が出ているので、親の転勤という方も中にはいると思う。

野田委員 単純な昨対比較だけじゃだめだと思う。と言うのは、10年間ぐらいの傾向値をつかんで、どの学科が減っているか、どの学科が増えているか。もっと言うと、10年先には2割減るではないか、生徒が。そうした時に、学校や学科の統廃合をしていかなければならないということが付いてくる。だから10年間の、今までの予測値から10年後2割減った場合にどうなるかというシミュレーションまで出していかないと。単純に昨対比較で増えた減ったというのはあまり意味がないと思う。ましてや定員数の問題で、来年これだけ生徒が減るからといって、どっちかという公立のほうが私立に対して譲歩しているではないか。だから人数的に私立が増えるのは当たり前。だからそこも踏まえた数値をやっていかないと、10年後を見据えて今やっていかない、大変なことになると思う。ぜひ、10年でどういう学科の増減があったかとか、地域別にどういう増減があったかというところまでやって、こういうデータがあれば出していただきたいと思う。

染谷課長 いただいた意見を参考に、様々なデータから検討していければと思っている。

和田委員 特別支援学校の希望者で、かえで支援学校は前年同期から比べて2倍になっている。中等部の子どもたちは調査していないと思うが、すると普通の中学校から、かえでの場合は知的に低いということがあるので、特別支援学級に入っている子どもたちが希望しているということだと思う。中には一応知的だけれども軽度の場合は普通の高校にする子もいる。それだけやはりニーズが高くてなっていて、かえで支援学校に行くと小学生の段階ですごく増えていて、特別支援学級とか学校に入りたいという子どもが今年度大変多い。知的な子どもたちはよいが、知的以外の自閉症情緒の子どもたちというのはなかなかかえで支援には入れない。IQが高いと入れてもらえず、低くて自閉症スペクトラムという場合は入れてもらえるケースがあるが、なかなか行き先がない。中央高校は、参考倍率が昨年度よりも上がっていると思う。行ける所という定時制とか、なかなか普通高校には行けないと親自身も考えていたり、不登校の子もその中には入っていると思うが、そういう細かな調査もしていただけると良いと思う。

染谷課長 今回はどこに希望があるかということを中心に調査しているので、当然進路指導の中ではそういったことはやられていることだとは推測される。

和田委員 中央高校には通級指導教室ができたということで、参考倍率が上がっているのはそんなこともあると思うが、昨年度は知っていれば中央高校を受験させたいという保護者もいた。それが分かってきたので学校でも積極的にそうしていると思うが、やはりそういうニーズを持っている保護者も大勢いて、ただ中央高校だけだと今後絶対無理だと思うので、通級指導教室を徐々に増やしていただくことも必要で、自閉症情緒学級にいる子どもたちのほうが実は知的学級より人数が小学校、中学校増えている。学級数も。そういうこともちょっと見通しを持ちながら考えて行くということも大事ではないかと思う。やがてその子どもたちがきちんと就職ができ、自分でちゃんとお金も稼げて、社会の中で認められながら自立していかなければと思うので。これから先、2年先、3年先、5年先、今よりもずっと増えていくと思う。1年生に上がる子どもたちが増えているということは、やがてその子どもたちが卒業していくわけなので、その辺のスパンも持っていたりしながら考えていただけるといいのかと、調査とはかけ離れてしまったんですが、よろしく願います。



- 染谷課長 特別支援の関係についても、来年度プランを改定するという事を考えているので、その中で取り込めることがあったら積極的に取り組む方向で検討させていただければと思う。
- 和田委員 一都九県で話が出たが、他県では、そういう子どもたちへの支援も手厚いような、高校改革ということでやっているが、高校改革を考える時にはそういう子どもたちのことも考えていただけると。それから不登校の子どもたちを積極的に採っている高校も出て来ているので、山梨だったら甲斐清和の人間文化コース。公立にはないが、公立にあるところも出てきていて、予算の関係もあるかと思うが、その辺も不登校も増えているので考えていただけるとありがたいなと思う。

【 了 知 】

(19) 第73回国民体育大会の結果について

[説明] スポーツ健康課

- 加藤委員 この9年間では山梨の位置付けというのが36位というのは、去年に次いで悪いということか。
- 前島課長 はい。
- 加藤委員 かつては20？
- 前島課長 24年が41位というのがあるが。
- 加藤委員 部活と関連しているものなのか、これは。あまり関連していないか。
- 前島課長 高校生の活躍ということだが、部活動の中のものということなので、部活動も国体に出るような選手は、各競技団体のほうで選抜をして強化しているということで、それらの成果は出てきているかと思う。

【 了 知 】

[ 教育長閉会宣言 ]

以 上